

アクシデントを乗り越える！

理系、複合・融合系人材コース 第2期生 扇山魁斗

所属：理工学系生命科学コース

留学時学年：学部3年

留学先：ミュンヘン工科大学（ドイツ）

実践活動：研究室におけるアカデミック・
インターン（IAESTE）



インターンシップ先の上司マイケルさんとサッカー観戦

➤ 留学中の一コマから～アクシデントから学んだこと～

ある月曜の朝、研究室に入ると電話に『シャイザー』と怒鳴っている人がいました。私の上司、マイケルさんです。いつもより機嫌が悪そうなので、あまり話しかけない方がいいと判断した私は、パソコンに向かって今日の仕事をしていました。その日の午後は、圃場（実験畑）でトウモロコシの採集を行う予定です。首都大にはない大規模な圃場なので手間と労力はかかりますが、より信頼性のあるデータが取れます。お昼ご飯をラボメンバー（研究室仲間）と食べた後、車で30分のところにある圃場に出発です。2mもあるトウモロコシが360度生い茂っているはずでした。しかし、着いたときに目にしたのは、圃場に生えたたった一本のトウモロコシでした。



刈り取られてしまった畑と一本のトウモロコシ

ここで今朝マイケルさんが何に対して憤慨しているのか繋がりました。この圃場は複数の研究室が合同で使っていて、畑管理人によって手入れされています。どうやら、となりの圃場を刈り取る際に、誤ってマイケルさんの圃場まで刈り取ってしまったようです。

これで上司が用意してくれていた実験はなくなってしまったので、同僚のクリスと実験を考えることになりました。私がアイデアを出してクリスが定量方法を考えるというチームプレーで新しい実験をスタートしました。結果、トウモロコシの固体内を菌がどのように繁殖するのか示唆されました。しかし、ク

リスと発表にまとめるにあたって整理方法と考察で食い違いが起きました。どちらかが説得しきる場面と両方の見解を載せる場面と両方ありました。上司には新たな発見と私たちの考えを伝え、私はこのドイツ留学をやり遂げました。学内だけにいると、どうしても外国人と議論をする機会が少ないので、今回の留学は実り多い経験だと感じています。

➤ 首都大での学生生活も満喫！～チームメイトから学んだこと～

ここで、時系列がさかのぼりますが、留学前の話を書きます。私が留学したきっかけは、サッカー部の先輩がイギリスに留学したことにあります。イギリスの大学院に進学したその先輩の志を聞いて、私もヨーロッパに行こうと決断しました。この先輩と一緒に所属していた首都大サッカー部には留学期間1年の休部を含む5年間活動していました。もちろん、チームの勝利のために日々練習していたのですが、振り返るとサッカーだけでなく人として成長したと感じました。



そして、総合大学ならではのメリットである他学部との交流が私に大きく影響を与えました。ここでの活動が私の専門外への知的好奇心を刺激してくれたと自負しています。特に、私の同期には成績優秀者が3人もいたので、彼らに食らいつくというハングリー精神が培われたのは確かです。イギリスの大学院にいった先輩から4年連続サッカー部から海外に飛び立った人がおり、現在は、2名の学生がフランスとスペインで勉強しています。

➤ 卒業後の進路について～トビタテ!の先に見えるもの～

最後になりますが、卒業後の進路についてです。私は学部卒で就職を選択し、4月から海運業で働きます。理由は、世界との繋がりを最も実感できるのが貿易だと考えたからです。留学やこれまでの人生を通して得た世界中の友達との繋がりを大切にするため、仕事ではより視野の広い国と国の繋がりに従事していきます。

その過程には個人ではどうしようもできない困難に直面することがあると思います。そんな時、身近にいる友達だけでなく、トビタテのネットワークも力を発揮すると信じています。学内だけでは会うことのできなかつた、世界各国に飛び立ったメンバーが知恵を貸してくれると思っています。